

板橋区環境基本計画（改訂版）における進捗状況について

板橋区は、環境都市「エコポリス板橋」の実現に向け、平成11年3月に「板橋区環境基本計画」（以下「計画」という。）を策定し、社会情勢を鑑み平成17年3月に改訂を行い、良好な環境の確保に向けて区民、事業者、行政のあらゆる主体における取り組みを推進してきた。平成19年度までの進捗状況を取りまとめたので報告する。

1 計画における環境指標の進捗状況

区の事業や区民・事業者の取組によって、環境がどれだけ良くなっているか、それとも環境に影響を及ぼす事象により環境が悪くなっているのかをおおまかに見るための「板橋区全体の環境のものさし」として、19の環境指標を設定し、平成20年度までの数値目標を立てている。平成16年度から平成19年度までの進捗状況は下記のとおりである。

環境指標	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	目標 (平成20年度)	目標年度に対する平成19年度の実績
健康と安全の確保 ～空気のきれいなまち～						
環境マネジメントシステム構築事業所数（ISO14001・板橋エコアクション[事業所版]※ ¹ を含む）	54件	79件 (IEA 9件)	142件 (IEA 62件)	187件 (IEA 96件)	400件	未達成 (目標の47%)
二酸化窒素(NO ₂)の環境基準達成率（(都)大和測定室除く）	78% (7箇所/9箇所)	100% (8箇所/8箇所)	100% (8箇所/8箇所)	100% (8箇所/8箇所)	100%	達成 (目標と同じ)
浮遊粒子状物質(SPM)の環境基準達成率（(都)大和測定室除く）	88% (7箇所/8箇所)	86% (6箇所/7箇所)	71% (5箇所/7箇所)	71% (5箇所/7箇所)	100%	未達成 (2箇所環境基準を超過)
大気中のダイオキシン類の環境基準達成率	100%	100%	100%	100%	100%	達成 (目標と同じ)
大和町交差点の環境基準超過日数 (二酸化窒素(NO ₂)及び浮遊粒子状物質(SPM))	NO ₂ 74日	NO ₂ 63日	NO ₂ 82日	NO ₂ 49日	NO ₂ 70日以下	達成 (目標の範囲内)
	SPM 2日	SPM 1日	SPM 2日	SPM 0日	SPM 7日以下	達成 (目標の範囲内)
自然とアメニティの保全と創造 ～生き物とふれあえるまち～						
緑に覆われている面積の割合※ ²	18.2%	-	-	-	18.2%	-

環境指標	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	目標 (平成 20 年度)	目標年度に対する平成 19 年度の実績	
区民一人当たりの 公園面積※ ³	3.45 m ²	3.56 m ²	3.54 m ²	3.52 m ²	3.56 m ²	未達成 (目標の 99%)	
石神井川・白子川 の生物種数※ ⁴ 合計 (魚類・貝類)	30 種類	30 種類	37 種類	47 種類	31 種類	達成 (目標より 16 種多い)	
石神井川・白 子川の水質 (BOD75%値)	石 神 井 川	1.9mg/L	2.5mg/L	1.1mg/L	1.7mg/L	3mg/L 以下	達成 (目標の範囲 内)
	白 子 川	5.0mg/L	7.2mg/L	4.9mg/L	4.9mg/L	5mg/L 以下	達成 (目標の範囲 内)
区民による調査で 確認された鳥の種 類数※ ⁵	-	10 種類 (カモ調査)	7 種類 (カモ調査) 3 種類 (ツバメの巣の 調査)	107 種類 (外来種等 4 種 含む)	99 種類	達成 (目標より 8 種多い)	
地球環境問題の克服 ～温暖化防止をめざすまち～							
板橋区全体から排 出される温室効果 ガス排出量※ ⁶	223 万 t-CO ₂	216 万 t-CO ₂	207 万 t-CO ₂	231 万 t-CO ₂	190 万 t-CO ₂	未達成 (目標より 22% 超過)	
板橋区役所から排 出される温室効果 ガス排出量※ ⁷	2.55 万 t-CO ₂	2.56 万 t-CO ₂	2.35 万 t-CO ₂	2.89 万 t-CO ₂	2.50 万 t-CO ₂	未達成 (目標より 16% 超過)	
環境への意識改革 度(板橋エコアク ション家庭版※ ⁸ 実 施件数)	-	142 件	402 件	1,533 件	3,500 件	未達成 (目標の 44%)	
板橋区(氷川町) の真夏日及び熱帯 夜の合計数	96 日	71 日	68 日	87 日	68 日	未達成 (目標より 19 日超過)	
循環型社会の構築 ～ごみを出さないまち～							
ごみ、資源を含め た総排出量の削減 率※ ⁹ (平成 15 年度 比)	2.2%	1.6%	2.4%	5.1%	1.0%	達成 (目標より 4.1 ポイント 高い)	
ごみ減量率※ ⁹ (平 成 15 年度比)	3.0%	2.3%	5.3%	8.4%	4.9%	達成 (目標より 3.5 ポイント 高い)	
リサイクル率※ ⁹	18.2%	18.1%	18.8%	19.5%	21.1%	未達成 (目標より 1.6 ポイント 低い)	

※1：板橋エコアクションは、平成 17 年度から実施している事業である。

- ※2：緑に覆われている面積の割合の目標年度は、次回調査の平成21年度とする。また、目標値は板橋区基本計画にあわせて、18.2%とする（この値は、平成16年度より開始した測定方法によるもの）。
- ※3：区民一人当たりの公園面積は、板橋区基本計画にあわせ、平成20年度に3.56m²とすることを目標とする。
- ※4：生物種は、魚類、爬虫綱、昆虫綱、甲殻綱、ヒル綱、ミミズ綱、マキガイ綱、ウズムシ綱とする。
- ※5：区民による調査で確認された鳥の種類数における調査は、平成17年度より準備段階として実施し、平成19年度から本格的に調査を行っている。
- ※6：板橋区全体における温室効果ガス削減目標（CO₂換算）は、板橋区地球温暖化防止地域推進計画の目標にあわせ、平成24年度とし平成2（1990）年度比で6%削減とする。なお、自動車走行量（平成17年度及び平成22年度における都内自動車排出ガス量等算出調査委託報告書）等の新たなデータの入手により実績値の修正を行っている。
- ※7：板橋区役所における温室効果ガス削減目標（CO₂換算）は、第二次板橋区地球温暖化対策推進実行計画の目標にあわせ、平成16年度比で平成20年度までに2%削減を目標とする。
- ※8：平成19年度における板橋エコアクション家庭版実施件数は、実施方法をチェック方式に変更し実施している。平成20年度からエコチェックシートと統合した。
- ※9：総排出量の削減率、ごみ減量率、リサイクル率の定義は以下のとおりである。
 総排出量の削減率＝（平成15年度の総排出量－当該年度の総排出量）÷平成15年度の総排出量×100
 ごみ減量率＝（平成15年度のごみ量－当該年度のごみ量）÷平成15年度のごみ量×100
 リサイクル率＝（資源量＋収集ごみのうち資源化された量）÷（ごみ量＋資源量）×100
 なお、総排出量とはごみ量と資源量をあわせたもの、ごみ量とは収集ごみと持ち込みごみをあわせたものである。

2 4つの望ましい環境像の現状

(1) 健康と安全の確保 ～空気のきれいなまち～

6項目の環境指標のうち、目標値達成4項目、目標値未達成2項目であった。概ね目標を達成しているものの、浮遊粒子状物質（SPM）や環境マネジメントシステムの項目で、目標を達成できていないことから、更なる対策の展開が必要である。

- 「環境マネジメントシステム構築事業所数」は、目標値達成率において、平成19年度は平成18年度より上昇したものの47%と低いことから、今後更に普及啓発を行っていく必要がある。
- 「二酸化窒素（NO₂）の環境基準達成率（（都）大和測定室除く）」は、測定室8箇所すべてで、環境基準を満たしている。
- 「浮遊粒子状物質（SPM）の環境基準達成率（（都）大和測定室除く）」は、目標値達成率71%であり、平成18年度と同様の結果となった。舟渡および上板橋測定局の2測定局において基準を超過した。
- 「大気中のダイオキシン類の環境基準達成率」は、平成16年度より環境基準を満たしている。
- 「大和町交差点の環境基準超過日数」は、二酸化窒素（NO₂）および浮遊粒子状物質（SPM）ともに、目標値を達成している。

(2) 自然とアメニティの保全と創造 ～生き物とふれあえるまち～

6項目の環境指標のうち、目標値達成4項目、目標値未達成1項目、達成率算定不可能1項目であった。概ね目標を達成していることから、引き続き、緑と水の保全や自然とふれあう場及び機会の創造に取り組んでいく。

- 「緑に覆われている面積の割合」は、5年ごとの調査で次回調査は平成21年度であるため、達成率は算定不可能である。
- 「区民一人当たりの公園面積」は、目標値の3.56㎡を0.04㎡下回り、目標値に達成していない。公園の整備は進んでいるものの、人口の増加が想定を上回ったことによるものである。
- 「石神井川・白子川の生物種類合計」は、目標値に比べ16種増加しており、また平成18年度より10種増加している。調査の結果、魚類では、コイ、ボラ、ハゼ、ウナギなど、水生生物は、テナガエビ、ザリガニ、ユスリカ、トンボ、アメンボなどが確認され、新たにメダカやヌマエビなどが確認された。
- 「石神井川・白子川の水質」は、両河川において環境基準を満たしている。更なる水質改善のため、流域自治体などと連携をしながら、推進していくことが必要である。
- 「区民による調査で確認された鳥の種類」は、平成18年度までは調査の準備段階として実施したため達成率が低かったが、平成19年度から本格的に調査を行い、外来種等（アヒル・ソウシチョウ・ドバト・ワカケホンセイインコ）4種を含むが目標値に比べ8種多く確認できた。

(3) 地球環境問題の克服 ～温暖化防止をめざすまち～

4項目の環境指標において、全ての項目が目標値未達成である。特に温室効果ガス排出量については、目標と大きく乖離していることから、目標達成に向け新エネルギー・省エネルギー対策やライフスタイルの変革を積極的に展開する必要がある。

- 「板橋区全体から排出される温室効果ガス排出量」は、平成19年度は、平成18年度より24万トン増加しており、目標値に対して22%の増加となっている。これは、エネルギー使用量の増加や電気における排出係数の増加の影響が大きいと考えられる。また、電気における排出係数を基準年度（平成16年度）と同様の数値（0.381 kgCO₂/kWh）にて算定すると219万t-CO₂となり、目標値に対して約13%の増加となる。

目標値に対し大きく乖離していることから、目標達成のため、板橋区地球温暖化防止地域推進計画に掲げる「16項目の重点対策」を積極的に推進していく必要がある。

・区民（民生家庭部門）の電気使用量
平成18年度 1,162,224,916 [kWh]
平成19年度 1,217,074,816 [kWh] ※約4.5%増

・区民（民生家庭部門）のガス使用量
平成18年度 83,849,000 [m³]
平成19年度 85,036,320 [m³] ※約1.4%増

・事業者（民生業務・産業部門）の電気使用量
平成18年度 1,374,284,750 [kWh]
平成19年度 1,396,545,118 [kWh] ※約1.6%増

・事業者（民生業務・産業部門）のガス使用量
平成18年度 115,953,000 [m³]
平成19年度 115,706,723 [m³] ※約0.2%減

- 「板橋区役所から排出される温室効果ガス排出量」は、平成18年度より、5,400トン増加しており、目標値に対して16%の増加となっている。これは、小中学校における電気使用量の増加及び電気における排出係数の増加の影響が大きいと考えられる。また、電気における排出係数を基準年度（平成16年度）と同様の数値（0.381 kgCO₂/kWh）にて算定すると2.69万t-CO₂となり、目標値に対して約7%の増加となる。目標値に対し大きく乖離していることから、目標達成のため、全庁的にエネルギー使用量や温室効果ガス排出量削減に向けた対策を積極的に推進していく必要がある。

・区役所（小中学校等含む）における電気使用量
平成18年度 45,052,740 [kWh]
平成19年度 48,721,826 [kWh] ※約7.5%増

・区役所（小中学校等含む）におけるガス使用量
平成18年度 3,433,826 [m³]
平成19年度 3,498,877 [m³] ※約1.9%増

- 「環境への意識改革度（板橋エコアクション家庭版実施件数）」は、目標値達成率が低かったことから内容の再検討を行い、平成18年度より飛躍的に増加したが、目標の半分程度である。平成20年度から、エコポリスセンターで実施しているエコチェックシートと統合を図り展開している。

- 「板橋区（氷川町）の真夏日及び熱帯夜の合計数」は、目標値に比べ19日超過し未達成である。真夏日及び熱帯夜の数、地球温暖化やヒートアイランド現象の影響のみではなく、その年の気象現象（冷夏や猛暑）に大きく影響されやすい項目である。

(4) 循環型社会の構築 ～ごみを出さないまち～

3項目の環境指標のうち、目標値達成2項目、目標値未達成1項目である。ごみの減量や資源回収率の向上がみられ、循環型社会の構築に向けた取り組みの成果であると考えられる。目標を達成するため、更なる普及啓発に努め、発生抑制と資源化に繋げていくことが必要である。

- 「ごみ、資源を含めた総排出量の削減率（平成15年度比）」は、目標値を4.1ポイント上回っている。
- 「ごみ減量率（平成15年度比）」は、目標値を3.5ポイント上回っている。
- 「リサイクル率」は、目標値を1.6ポイント下回っている。

3 評価

環境指標のうち、目標値を達成した項目は、19項目中10項目、未達成項目は8項目、達成率算定不可能1項目であった。特に、大和町交差点の浮遊粒子状物質対策や石神井川・白子川の生物種数、区民による鳥の確認数、さらに、ごみなどの総排出量削減率やごみ減量率において前進を見ることができた。

また、環境マネジメントシステム構築事業所が目標値の半分程度であることから、板橋エコアクションの制度を見直すなど改善を進めており、目標達成に向け更なる推進を図る。

温室効果ガス排出量については、板橋区および板橋区役所において平成18年度より大きく増加しており、これは電気における排出係数の増加が影響しているが、エネルギー使用量の抑制も課題となっており、目標達成に向け積極的な対策の推進が必要である。

なお今後は、平成21年3月策定予定の環境基本計画（第二次）により、望ましい環境像の実現に向け、更なる環境向上を目指していく。

4 参考

- 電気の排出係数（東京電力株式会社による公表値）
平成18年度 0.339 [kg-CO₂/kWh]
平成19年度 0.425 [kg-CO₂/kWh] ※約25%増